

01

実現による社会への貢献 ユビキタスサービスの

自動車や歩行者の安全をめざし、 交通における新しい価値を創出

いつでも、どこでも受けられる ユビキタスサービス

携帯電話やパソコン、カーナビゲーションといったモバイル機器の普及、ブロードバンドやNGN(次世代通信網)の構築により、いつでも、どこでも、どんなものとも通信できる時代に入りました。

このようなユビキタス・ネットワークの進展は、サービスに対する世界の人々の意識や生活スタイル、社会構造に変化をもたらします。たとえばお金。かつては銀行の窓口で営業時間内におろさなければならなかったものが、キャッシュカードによるATM取引となり、今では携帯電話で電子マネーをチャージすれば、財布を持ち歩かなくても買い物ができるようになりました。今後さらにサービスが進化すると、何も持たなくても本人確認さえできれば、買い物ができるようになるかもしれません。このように、サービスを受けるための時間的・場所的・物理的な制約がなくなり、最終的にはあなたか自分のまわりにサービスが「遍在している(=ユビキタス)」かようになることが、究極のユビキタスサービスだといえます。

OKIは、こうしたユビキタスサービスの実現をめざして、さまざまなソリューションの創出に取り組んでいます。

自動車交通においても活かされる 情報通信技術

現在、ICT(情報通信技術)を活用してユビキタス社会の実現に近づいている分野に、自動車交通があります。自動車交通は、人々にとってなくてはならない生活基盤(インフラ)ですが、一方で交通事故、渋滞、環境汚染などの問題も抱えています。これらの解決に向けて、ICTを活用して「人と道路と車一体のシステム」を構築することで、安全性、輸送効率の向上、環境保全をめざしているのが高度道路交通システム(Intelligent Transport Systems: ITS)です。

OKIは、このITSの分野においても、1984年に建設省(現:国土交通省)にRACS(路車間情報システム)の事業化を提案し技術開発に携わるなど、常に先進的に取り組んできました。

OKI独自の車々間通信システムで 安全運転支援システムの 実現に貢献

OKIでは、活用段階にあるVICS(道路交通情報通信システム)、ETC(自動料金支払いシステム)に続き、これらの技術を活用した次世代のITSソリューションの開発を進めています。その一つとして、車と車間で直接文字・数値情報や音声・画像をやりとりする車々間通

C o m m i t m e n t

ユビキタスという概念が提唱される前から、現在のITSソリューションをイメージして事業に携わってきました。そして今は、自動車交通が重要な生活基盤であるからこそ、ユビキタスサービスが不可欠であり、そこからもっとさまざまな可能性も追求できると考えています。OKIは現在のVICSにつながる技術開発を他社に先駆けて手がけるなど、常にこの分野に挑戦し続けてきました。その先駆者としての自負を持ち、より新しいサービス、価値の創出を追求していきます。

ITSビジネスユニット長
中ノ森 賢朗

Yasuro Nakanomori



信システムがあげられます。このシステムを用いれば、周辺道路で発生している渋滞、事故などの情報を即時に入手することが可能となり、出会いがしらの衝突、追突事故の防止にも高い効果が期待できます。

現在、ITS推進協議会が2010年の実用化をめざす安全運転支援システムの大規模実証実験を展開していますが、OKIはこの実験に参加している全自動車メーカーに車々間通信システムを提供しています。また2009年2月に実施された公開デモンストレーションにおいては、公道試乗会用として、ETCで使われている5.8GHz帯の双方向無線通信を使った路車間通信システムも提供しました。

OKIが描くITSユビキタス空間

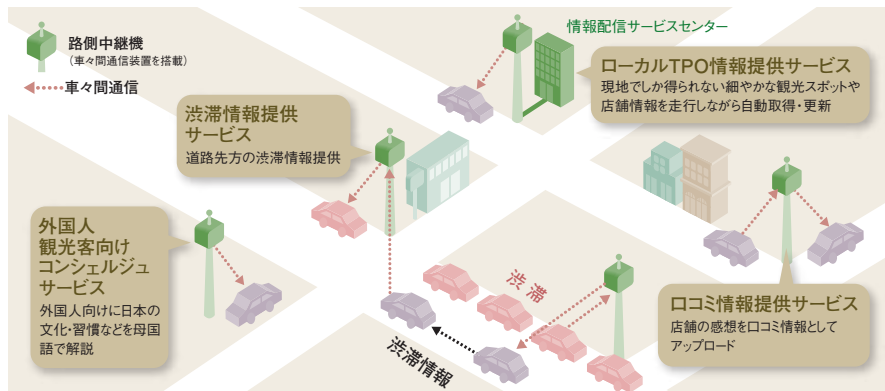
さらにOKIは、交通安全や輸送効率の向上、環境保全にとどまらないさまざまなソリューションを、ITSによって提供することができると考えています。たとえば、総務省が推進して

いる沖縄県のユビキタス観光立国事業では、観光ドライバー向けに、現地でしか得られない観光スポット情報や外国人観光客向けコンシェルジュサービスなどを提供することでサービスの向上をめざす構想があり、OKIはそのためのシステム開発を進めています。

将来、自動車がさらにいろいろな情報を受け、発信できるようになれば、自動車の運転によって防災マップの作成、道路整備後の効果の確認、地域開発の基礎データ収集などが可能になると考えられます。自動車は、人や物を運ぶ生活基盤としてだけでなく、新しい情報基盤としても社会を支えることになるかもしれません。

一方で、新しい情報システムにはそれに対応した新しい情報セキュリティの確保が必要になります。こうした面についても、OKIは自らの技術開発や産官学の連携などによって課題解決に挑み、より安全で快適なユビキタス社会の実現をめざしていきます。

● 沖縄県のユビキタス観光立国事業における観光ドライバー向けISLAND※システムのイメージ



※ISLAND : Integrated Spot Local Assistance & News Delivery System for tourist drivers

Stakeholder's Voice Masahatsu Ura



西鉄情報システム(株)
ソリューション本部
交通システムグループ
部長

浦 正勝様

私は、西日本鉄道グループの一員として鉄道、バスなどの運輸事業におけるIT化ビジネスを推進しています。OKIさんのITS分野におけるシステム構築技術、運用ノウハウなどを活用し、これまでに高速バスロケーションシステム「Qバスサーチ」や九州自動車道基山サービスエリアにおける「高速バス乗り換え案内システム」などを実現しました。お客様から好評をいただいております。

運輸事業におけるITSは始まったばかりですが、車々間通信システムを使った情報キャリアサービス、鉄道やバスなどの運輸インフラを使った情報サービスの展開など、新たなビジネスを創造したいと考えています。今後とも、OKIさんとの連携を密にして、上記テーマを一つひとつ実現し、快適なユビキタスサービスを提供していきたいと思っております。

Column

歩行者の安全も支援 — 世界初・携帯電話用車々間通信アタッチメントを開発

日本では、交通事故死者数全体の4割を歩行者や自転車乗用者が占めており、車と人が情報を交換することも交通安全上有用な防止策として注目を集めています。OKIは車々間通信システムで培った技術を応用した人車間通信システム「SPAN System」の研究・開発に取り組んでいます。

2007年5月に携帯電話を活用した「安全携帯端末」を発表したの続き、2009年1月には、携帯電話に接続して使用することが可能な「安全携帯アタッチメント」の試作にも世界で初めて成功しました。「安全携帯アタッチメント」を利用すれば、歩行者が普段持ち歩いている携帯電話でも、車々間通信システムを搭載する周辺車両へ自身の位置を通知し、また周辺車両の位置情報を取得する

ことが可能になります。まだ試作の段階ですが、2010年度までに必要な技術開発を行うことになっている「歩行者・道路・車両による相互通信システム」へ技術貢献を果たし、交通事故の低減に寄与していくことをめざします。

さらに今後は、携帯電話から歩行者への有効な注意喚起手段や、歩行者と車両間の意思表示方法など、効率的な安全支援アプリケーションの開発を進めていきます。



安全携帯アタッチメント